

統合医療を推進する医療人のための専門情報紙

統合医療ジャーナル

Integrated Medicine Journal

Vol.16号

発行元：日本医療情報出版
〒101-0021
東京都千代田区外神田 6-5-3
偕楽ビル新外神田 5F
TEL.03-5688-7816
FAX.03-5688-7803
info@im-journal.com
隔月 20 日発行
年間購読料 ¥6,480 (消費税込)
振替口座：00140-7-600046

混合診療は原則解禁、平成 26 年度内に制度改正 医療法人のサプリ販売、「可能である」ことを周知徹底 政府の新成長戦略に盛り込み閣議決定へ

6 月に発表される政府の新成長戦略の中に、個別評価で混合診療を可能とする「選択療養（仮称）制度」の創設案や、「医療法人のサプリメント販売」などが盛り込まれることがほぼ確実となった。患者の希望に応じて自費診療（保険外診療）を併用する道筋が開けてきたことで、海外で一定の評価を受けた補完・代替医療（CAM）なども選択肢となる可能性が出てきた。医療法人のサプリメント販売については、早ければ今夏にも通知が出されることになる。（2、3 面に関連記事）

◆“患者発”の混合診療に厚労省も合意

混合診療の解禁を巡っては、経済界はもとより財務省や経産省からも全面解禁を求める声が高まっていた。これを受けて政府の規制改革会議は、当初、全面解禁を視野に理論武装していたが、岩盤規制の壁が予想以上に厚かったことから、予先を保険外併用療養費制度の改革に変え、患者の個別ニーズに即応できる「選択療養（仮称）制度」を提

案。難色を示していた厚労省も“患者発”の混合診療という考え方に合意した。

4 月 25 日に会見した稲田内閣府特命担当大臣は、「選択療養は、患者さんが望みを託した場合にそれを認めていく新しい制度」と強調。後藤内閣府副大臣は、5 月 13 日の参院内閣委員会で、「選択療養は、現行の保険外併用療養費制度の枠内の改革である」として、全面解禁との批判をかわした。

新制度では、一定のエビデンスが確認されていることを要件としているため、日本で認められていなくても海外で臨床応用されている治療法や、米国 NCCAM などの臨床研究によりエビデンスが蓄積されつつある CAM については、選択療養の評価対象となる可能性がある。副作用リスクが高い難治疾患や高齢者医療においては、QOL 向上の観点から機能性食品をはじめとする CAM を希望する患者が増えることも

機能性食品等の有効性を示唆する記事を複写して、一般消費者へ配布したり、消費者向け媒体に転載することは、著作権法及び健康増進法、その他の関連法規に抵触する恐れがあります。



予想される。

◆企業はエビデンス情報を発信する必要がある

一方、医療法人の業務範囲の見直しで提案された病院内でのサプリメント販売は、平成 26 年度上期にも周知徹底される見通しだ。これまで保健所等からの指導で、販売を躊躇していた医療法人も、今後は大手を振って販売できるようになる。

ただ、医療機関は公共性が高いこと

から、商品選定に当たっては慎重な対応が求められる。規制改革会議の森下竜一委員（大阪大学大学院教授）は、「エビデンスがしっかりした製品でないと売れないだろう」と話す。折しも消費者庁の検討会では、サプリメントの安全性確保として、機能性成分と医薬品との相互作用チェック、複数の機能性成分が配合されている場合は、それらの相互作用の有無を評価することが義務付けられる方向にある。サプリメントを製造販売する企業にとっては、エビデンス情報を医療機関に発信していくことが不可欠となりそうだ。

今月の主な内容

- 規制改革会議が個別適用の混合診療を提唱……………2
- インタビュー：
規制改革会議委員 森下竜一氏……………3
- アメリカ栄養療法の現状と課題……………4～5
- 第 14 回日本抗加齢医学会総会……………6
- 資料：消費者庁機能性表示検討会……………7
- 機能性食品・機器の動向……………8～12
- 症状別プラセンタ療法 10 回……………13
- ニュース……………14～15

医療人とメディカル・サプリメントの企業人の連携を推進する

日本統合医療普及推進協会 入会のご案内

日本社会は、少子高齢化が世界一のスピードで進み、様々な社会的矛盾が噴出しており、改めて、持続可能な医療・福祉制度の再構築が求められています。これからの日本医療の健全な発展のためには、統合医療の普及と定着は不可欠な課題であり、そのために、関連の業界人による幅広い連携が求められています。こうした取り組みの一環として、このたび「医療人とメディカル・サプリメント企業の連携推進」のための「日本統合医療普及推進協会」が発足しました。本協会の趣旨をご理解いただき、できるだけ多くの企業の皆様にご参加をお願い致します。また、統合医療をめざす医療人の皆様方にも、積極的にご参加いただき、「医療人と企業人の連帯」を強め、統合医療の普及と推進を進めてまいりたいと考えています。

お問い合わせは下記まで

JAPIM 日本統合医療普及推進協会
Japanese Association for Promotion of Integrated Medicine

〒101-0021 東京都千代田区外神田 6-5-3 偕楽ビル新外神田 5F
Tel & Fax : 03-3836-2810 e-mail : japim@yj8.so-net.ne.jp

Interview

「INDIBA と統合医療」

インディバ・ジャパン代表取締役・会長山口祐司氏

高濃度ビタミン C 療法やリンパ球療法などの治療効果を高めるために、温熱療法が併用されている。温熱療法で使用されている高周波温熱機器 INDIBA(商標登録: 以下省略) と統合医療を実践する医療従事者との関わりは 10 年になり、各領域で認知度を高めている。INDIBA を日本に普及させたインディバ・ジャパン代表取締役・会長山口祐司氏に「INDIBA と統合医療」をテーマに話を聞いた。

◆新しい論文を投稿

— 利用方法と最新論文について

高周波温熱機器 INDIBA は、高濃度ビタミン C 療法やリンパ球療法などの治療効果を高めるために併用療法として使われてきました。疾患を抱える人の体は冷えており、単独療法では治療効果が期待できないことがあります。各治療の前に、INDIBA を当てることで、患者の体温を正常値に戻し、治療効果を高めることができると、多くの医師が評価しています。

再生医療が注目を集めています。スペインのラモン・イ・カハル病院の生体電磁学研究所所長であるアレハンドロ・ウベダ博士が INDIBA における重大な論文を世界的な医学雑誌に投稿しました。掲載されれば、日本の統合医療分野でも注目を集めるのではないのでしょうか。

◆統合医療分野で 10 年使用

— 使用されている先生やこれまでに取得したデータについて

INDIBA が統合医療分野で使用されて 10 年になりますが、同分野の最前線で活躍する先生方に多く利用して頂いています。

高周波温熱はがん治療でも導入さ

れ、 $42 \pm 1^\circ\text{C}$ 以上の高加温効果でがん細胞が壊死することが知られています。一方 INDIBA は 39°C 以上のマイルド加温効果で HSP の増加、つまり免疫強化やがん細胞の抗原顕在化を、非熱効果でがん細胞の増殖抑制を確認しています。また抗がん作用以外の効果として、自律神経調整や免疫の改善、疼痛の緩和など QOL の向上が挙げられます。

併用療法と単独療法の効果の違いを表したデータもあります。あるクリニックで実施されたがん細胞株を用いた実験では、高濃度ビタミン C 単体よりも、温熱療法を併用した方が、効果が增强できることが確認されています。

◆8 年かけて知ることができる機器の有用性・有効性

— 保証期間や教育体制について
弊社の特徴の一つに教育体制があります。14 名のインストラクターが年間を通して多くの講習を実施しており、それらはすべて無料で行っています。

機器の保証期間が 8 年ということも



山口祐司会長

特徴でしょう。INDIBA の有用性・有効性をすべて知っていただくには、およそ 8 年の期間を要するとして、長い期間を設定しました。

統合医療をはじめ、INDIBA は美容整形、皮膚科、スポーツ医学、エステなど分野や用途が多岐に渡ります。スポーツ医学では単独での効果、統合医

統合医療分野では、機器に頼らない治療をされている医療従事者の方が多いと思われませんが、是非治療効果を高めるためにも高周波温熱機器を併用して利用していただきたいですね。

弊社は設立から 20 年になり、医療分野やスポーツ医学の分野、美容分野で信頼を高めてきました。機器を製造しているスペイン・インディバ社でも世界のトップアスリートが契約し、機器を利用しています。直近ではマラソンをはじめとするスポーツ選手の育成やケア、マネージメントを世界的に手掛ける「Rosa Associati」が今後 3 年間提携することが決定するなど、支持をいただいています。

一方、国内では高周波温熱療法をご存知のドクターはまだまだ少ないのではないのでしょうか。再生医療に期待を寄せる一人として、各領域で INDIBA は補完的な立場で、画期的な治療で貢献できると思います。

統合医療と関わり 10 年。再生医療分野で、INDIBA がさらに多くの人に直接働きかけることができるようになれば、INDIBA の貢献度も高くなるのではないのでしょうか。

今後はがんの自由診療だけでなく、ロコモティブシンドロームを患う人など運動機能に働きかけるなどして、より広範囲な医学領域、再生医療領域で、治療のプログラムに組み込んでいきたいと考えています。

統合医療と関わり 10 年
併用療法で治療効果を高める

療は併用療法と、各領域によって使い方が異なっているのです。

統合医療ですでに併用されている先生も他領域での有効性を知っていただき、利用していただいております。

機器は、販売者と購入者の信頼のもとで販売させていただき、リスクを購入者に負わせてはならないと考えています。販売を先行させるのではなく、講習者が満足できるような教育を優先しています。

◆がん領域での併用から運動機能まで貢献

— 今後の展望について



インディバ® RMD530

株式会社アイ・ティー・オー

メディカルスキンケアプロダクトのエキスパート

Your Radiance.
Our Science.— あなたの輝きは、
わたしたちのサイエンスから —

■医療機関向け化粧品 (AP5 シリーズ・STI シリーズ) と健康食品の販売

■化粧品原料販売 (小ロットでも販売)

- ・新原料 両親媒性ビタミン C 誘導体 GO-VC
- ・抗酸化ビタミン C 誘導体 ナノカプセル ナノスフィア
- ・パルミチン酸アスコルビルリン酸 3Na(APPS)
- ・アスコルビルリン酸 Na(APS)
- ・リン酸アスコルビル Mg(APM)
- ・テトラヘキシルデカン酸アスコルビル (VCIP)
- ・その他 (各種ペプチド、ミネラルクレイパウダー、レスベラトロール、ソマシー、他)

■OEM 受託

■メディカルエステ関連事業

株式会社アイ・ティー・オー

本社
〒180-0006 東京都武蔵野市中町 1-6-7-3F
TEL:0120-31-6588 FAX:0120-83-6566
研究所
〒651-0097 兵庫県神戸市中央区布引町 4-3-15-7F
TEL:078-200-5522 FAX:078-200-4881

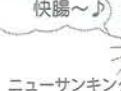
URL: <http://www.provitamin.jp>
E-mail: ito@provitamin.jp

モンゴル大自然が育んだ天然のサプリメント
多種類の NS 乳酸菌を配合

大草原の乳酸菌



NS 乳酸菌とは金鋒博士 (中国科学院) がモンゴル地方で採取した乳酸桿菌群の総称です。

快調～
快腸～♪

株式会社ラクア

取扱医療機関募集中

<http://www.laca.co.jp/>〒101-0052 東京都千代田区神田小川町 2-3-13 M&C ビル 3 階
TEL:03-5577-6143 FAX:03-5280-2533 info@laca.co.jp

ニューサンキング